

「女子中高生夏の学校 2011」の報告

東京大学大学院総合文化研究科 広域システム科学系

柏原 賢二

2011年8月18日に東京四谷の土木学会会館にて行われた「女子中高生夏の学校 2011」(以下、「夏学」と表記します)に日本数学会の担当委員として参加しました。夏学の紹介とともに、その報告をしたいと思います。理系に進学する女子学生を増やすことが夏学というイベントの主な目的であり、今年が7回目の開催になります。主催団体は国立女性教育会館他で、日本数学会も協賛団体の一つになっています。対象は全国から募集した女子中高生で、実行委員にはいろいろな学会や企業の方がいらっしやいます。夏学のOGを中心とした大学生スタッフも多く参加していて、夏学の企画の半分は学生が行います。私は、日本数学会の男女共同参画社会推進委員の夏学担当として、昨年度から参加しております。今年は、斉藤義久先生とともに二人で担当しました。

震災による縮小開催

今年は、東日本大震災の影響で、例年とは異なる形で行われました。例年は埼玉県の嵐山町にある国立女性教育会館で行われます。宿泊施設もあり、近年はお盆の前後に2泊3日で行われていました。数学会からは、実験実習2講座とポスター企画に参加していました。今年もその予定だったのですが、大震災が起これ、4月初旬に実行委員に対して今年の夏学の中止がアナウンスされました。夏の電力事情と(武蔵嵐山のあたりは、暑い場所として有名なようです)と、宿泊中に地震や停電がおこった場合にどのように対処できるか不安であるなどの理由であると思われます。しかし学生のスタッフから、どうしても開催したいという声上がり、5月の実行委員会において、土木学会所属の岡村美好委員長により土木学会会館での開催を提案していただき、1日間だけの縮小開催をすることになりました。

ポスター企画と準備

縮小開催のため、例年行われていた実験実習は取りやめになりました。そして、ポスター企画は、会場の広さの都合もあり「震災に関連するテーマに沿ったもの」に限ることになりました。震災に関連する展示を、数学を使って行うのは困難だと思い、出展の取りやめも考え、男女共同参画推進委員会のメーリングリストにおいて相談しました。そのとき小磯深幸担当理事より、「日本数学会理事会声明 ～東日本大震災に際して」というものがあることを教えていただき、夏学での使用許可も取っていただきました。その声明文を拡大したものを壁に掲示し、ブースにおいては、例年どおりの数学に関するデモも行うということでポスター企

画に出展することになりました。東京大学の数理科学研究科には、ポスターの印刷を引き受けていただきました。斉藤先生とポスター企画におけるデモ展示内容を話し合っていたときに、通りがかった織田孝幸先生に、三角形や四角形を使って多面体を作る模型（下記の写真）を貸していただきました。また斉藤先生の提案で、「各桁の数字の和が3の倍数ならば、その数字は3の倍数になるのはなぜか。」などの、倍数に関する問題を参加者に解かせてみようということになりました。



夏学当日

日本数学会からは、斉藤先生の他、昨年度の委員長の松井泰子先生と情報システム運営委員の角皆宏先生もポスター企画の応援に来て下さいました。今年は参加者募集のアナウンスが遅れたこともあり、女子中高生の参加者は20名弱でした。ブースを訪れた生徒に、用意した問題を解かせたり、多面体の模型を使ってオイラーの多面体定理を説明したりしました。数学会の企画に特に興味を持った生徒が2名いて、長時間にわたり問題に取り組んでいました。また、他ブースの出展者などが数学会の展示に興味を示していました。今年も出展して良かったなと思いました。

夏学には10以上の学会・団体から景品が提供されており、参加者に渡されました。日本数学会からもボールペン24本、クリアファイル6個、うちわ6個が提供されました。今年の夏学の目玉企画である、南極昭和基地の女性越冬隊員との中継もうまく行き、夏学全体としても成功したといえるでしょう。参加人数は多くはなかったですが、ひとりひとりの満足度は高かったのではないかと思います。男女共同参画社会推進委員の方々にもメールでアドバイスをいただくなど大変お世話になりました。ありがとうございました。以上